

共に歩まん

令和3年11月19日発行

第18号

長野県中信教育事務所

←過去の「共に歩まん」はこちら



シリーズ「指導と評価の一体化」 特別支援教育編

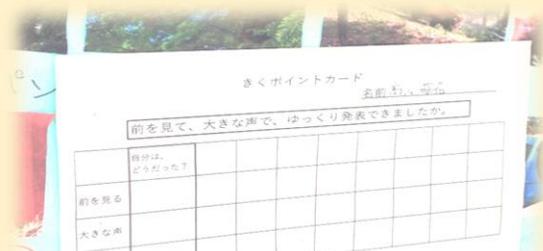
～個々の教育課題の実現状況を把握し、どう学んだかを捉える自立活動の指導～

特別支援学級で行う自立活動の指導は、学習上又は生活上の困難を主体的に改善・克服し、心身の調和的発達の新盤を培うことを目的としています。今回は特設の時間における自立活動の指導と評価についてみていきましょう。

【指導】楽しかったことを友達に伝える場面を位置付ける。

楽しみにしていることを明確にして出かけた茶臼山動物園への校外学習の経験をもとにして、思い出をまとめた「振り返りカード」を作りました。どんなことを友達に発表したいかを考えて「発表カード」にまとめたり、友達に見せたい写真を選んだりする活動をしてきました。先生はそのカードを使った発表会を位置付けることにより、Aさんの個別の指導計画にある教育課題「相手の気持ちを聞いたり、自分の考えを話したりして、互いの気持ちを確認し合うことができる」の実現状況を把握しようとしてしました。

「発表カード」を先生と一緒に確認します



「聞くポイントカード」を使って、聞くときの観点を焦点化しました

【評価】事実に基づいてどう学んだかを捉える。

Aさんは、先生と確認した「発表カード」を手がかりにしながら、友達の前で思い出を堂々と発表することができました。また、友達の発表にも熱心に耳を傾けることができました。そのとき先生は、「3つのポイント（前を見て、ゆっくりと、大きな声で発表しているか）をよく見て聞けたね」とAさんによいところを伝えました。そして、聞く姿のよさを、熱心に聞く様子や「聞くポイントカード」への記述内容からも捉え、「主体的に学習に取り組む態度」や「思考・判断・表現」の視点で、Aさんの育ちが教育課題の実現に近づいていることを評価しました。

発表するAさん

友達の発表を聞くAさん

発表を聞きながら、カードに友達の発表の様子を記入するAさん



個別の教育課題に関わる具体の姿から事実に基づいて評価をするんだね

